

ご協力のお願い

今回、当院では、産道裂傷に起因する産褥出血と定義される患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させて頂きたいと考えています。

研究課題名

産道裂傷に起因する産後出血に対する血管内治療（IVR）の有効性および安全性

(Efficacy and Safety of Interventional Radiology for Postpartum Hemorrhage Caused by Birth Canal Laceration)

研究の目的

本邦における妊産婦死亡率は、10万分娩あたり約3~5例で推移しており、発生頻度としては稀です。しかし、出産という母体の安全が最大限に担保されるべき時期に生じる予期せぬ妊産婦死亡は、周産期医療における極めて重大な課題です。妊産婦死亡を限りなくゼロに近づけるため原因を詳細に検証し、再発防止策を講じることが不可欠です。

本邦における妊産婦死亡事例の内訳では最も多いのは産科危機的出血であり、全体の約18%を占めると報告されており、産科出血に対する適切かつ迅速な治療戦略の確立が喫緊の課題です。

これまで、産科危機的出血に対する治療法として、子宮動脈塞栓術と子宮全摘出術を比較検討した研究は報告されている一方で、産道裂傷に起因する出血症例に焦点を当て、血管内治療（Interventional Radiology：IVR）と外科的治療を直接比較した研究はほとんど存在しません。本研究では、当院において産道裂傷による産科危機的出血を認めた症例を対象とし、IVRを施行した症例と外科的治療を行った症例について、画像所見や術前と術後の出血量やバイタルサインの比較、予後等について比較を行います。これにより、産道裂傷に対するIVRの有効性および安全性を明らかにし、今後の治療方針の最適化に寄与することを目的としています。

研究の方法

・対象となる患者様について

2010年1月~2025年12月に産道裂傷に起因する産褥出血と診断され当院にてIVRもしくは手術加療治療されている患者様を対象とします。

・研究期間について

倫理審査委員会承認日~2026年3月31日とします。

・方法について

上記対象となる方の診療録より情報収集し、産道裂傷に起因する産褥出血と定義される症例について、画像検査の所見、治療方法と予後の比較と検討を行います。

・研究に用いる試料・情報について

年齢、経妊歴、分娩形式、血腫部位、病着時バイタル、手術室入室前後のバイタル、入室までの時間、手術時間、出血量、輸血量、治療成功率、合併症についてなどです。

・資料の管理について

情報は全て匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

本研究は、京都第一赤十字病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。本研究では、通常の診療情報の解析のみを行うもので、患者様への利益も不利益も生じません。本研究の参加に関しては、本掲示をもって文書同意に代えますが、ご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記連絡先までご連絡ください。その場合でも患者様に不利益が生じることは一切ありません。この研究計画についてご質問などがある場合は下記までご連絡ください。

連絡先 京都第一赤十字病院 産婦人科 大久保 智治、三木 春奈
電話 075-561-1121 (代)